

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分の考えを図や式に表し、説明する活動を継続して、系統的に取り組んできたため、思考・判断・表現や活用する力が付いてきている。

(2) 課題

- ・プリントやタブレット端末を活用した繰り返しの学習を継続して行い、図形やデータの活用の領域の基礎・基本の数の理解の定着を目指す。
- ・授業で問題の考え方を図や式を活用して説明させる時間や、学習の振り返りを書かせる時間を確保し指導するなどして、説明する力や記述する力を伸ばす。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	達成率は7割を上回っている。		
第5学年	達成率は約7割である。	(第4学年時) 達成率は7割を上回っている。	
第6学年	達成率は約7割である。	(第5学年時) 達成率は7割を上回っている。	(第4学年時) 達成率は約8割である。

達成率とは、目標値<sup>※1</sup>以上の正答率<sup>※2</sup>だった児童の割合

(目標値以上の児童数÷受験者数×100(%)

例えば、達成率が7割ということは、目標値に達成した児童の割合が7割ということ。全体の児童が100人としたら、目標値に達しているのは70人で残りの30人は、前年度の基礎的な内容の定着に課題があることを示す。

※1 目標値とは、調査において前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される正答率の値

※2 正答率とは、出題数に対する正解した問題数の割合

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・おおむね目標値を上回っており、基本的な内容の習得はできている。</li><li>・第4学年では、ひき算の繰り下がりの計算が目標値を5ポイント以上上下回っている。また、図形の問題の多くが、ほかの領域より正答率が低い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・おおむね目標値を5ポイント以上上回っており、基本的な内容の習得はできている。</li><li>・第4学年では、□を使った式に関する問題やわり算のあまりの扱いについて記述する問題が、ほかの領域より正答率が低い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自力解決や意見交換といった学習活動にも、意欲をもって取り組もうとする児童が多い。</li><li>・学習活動の振り返りについては、具体的に書ける児童は少ない。</li></ul>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・おおむね目標値を上回っており、基本的な内容の習得はできている。</li><li>・第5学年では、わり算の筆算や分度器の目盛りの読み取り、図形の作図で目標値を5ポイント以上上下回った。</li><li>・第6学年では、最大公約数についての問題で、目標値を5ポイント以上上下回った。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・おおむね目標値を上回っており、基本的な内容の習得はできている。</li><li>・第5学年では、計算のきまりの正答率が低く、目標値を下回った。</li><li>・第6学年では、与えられた情報から、発言内容が正しいことを記述する問題の正答率が低く、目標値を5ポイント以上上下回った。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自力解決や意見交換といった学習活動が習慣付いてきており、自分の考えをまとめて、ペアやトリオで積極的に意見交換をしている。</li><li>・全体の場面での発言や発表、振り返りの記述については、個人差が見られる。</li></ul>

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算やひき算は計算カードやプリントなどを活用して繰り返し練習し、定着を図る。</li> <li>・2桁のたし算やひき算では、10に対する補数を意識させることで、計算の仕方を身に付けさせるとともに、プリントやドリルパークを活用し、繰り返し取り組ませる。</li> <li>・長さや水のかさについて、実際に操作をさせながら、量の大きさを予想し、実際の計測値と比べることを通して、単位の意味や関係を理解させる。</li> <li>・図形の素地づくりとして、形遊びやタングラムなどの活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章題では、分かっていることを整理し、「合わせて」「みんなで」「ふえると」「のこりは」「～より～おおい」「ちがいはいくつ」などの言葉に注目させて正しく立式できるようにする。</li> <li>・具体物やブロック操作の時間を確保し、図や立式に結び付けて考えられるようにしていく。</li> <li>・ブロック操作を振り返りながら文章題をテープ図に表す練習をし、数量関係の表現ができるようにする。</li> <li>・考え方を図や文章、式など、多様な方法で表現し、交流する場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活と結び付けられるように導入を工夫する。</li> <li>・既習事項とのつながりを意識しながら新たな問題に取り組めるよう導入を工夫する。</li> <li>・デジタル教材を活用し、教室内では計測できない量を視覚的に捉えさせる。</li> <li>・長さや水のかさについて、量の大きさを予想し、実際の計測値と比べることを通して、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活に活用させる。</li> <li>・学習内容の定着と、より深い学びにつなげるために、振り返りは、学習のまとめりごとに書かせるように評価計画を立てる。</li> </ul>

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の中の練習問題や文章問題等にあるたし算やひき算の筆算について、習熟度や必要に応じて、筆算の手順の確認をする。</li> <li>・図形の性質について、関連する領域や授業において、必ず既習事項の確認をして定着を図る。作図は、ノートやプリントで、繰り返し練習し、分度器やコンパスの使い方の習熟を図る。</li> <li>・個別またはクラスごとの習熟度や課題に応じて、復習する内容を明確にし、プリントやタブレットドリルを活用して基礎基本の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を生かして見通しをもって解決する学び方を価値づけ、繰り返し指導して、問題解決能力を高める。</li> <li>・問題を図式化するなど、具体的な場面と式の間関係を確認し説明するなどして、計算や式の理解を深める。</li> <li>・他者の考え、図や式について聞き取ったこと、読み取ったことを自分の言葉で説明する。他者の意見や活動を知り、認め合う活動を通して学習内容の理解や学び方の変容を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童個々の理解度や学習状況、単元の特性等を考慮して習熟度別学習のクラス編成を行い、すすんで学習に取り組めるようにする。</li> <li>・デジタル教科書や具体物、ワークシートなどを習熟度別クラスの実態に合わせて活用する。確実な問題把握や多様な表現ができるようにする。</li> <li>・自力解決や意見交換、話し合い活動の場では、多様な見方や考え方を試みることを促す。自他の考えを比べるなどして、継続して授業内でのコミュニケーションの充実を図る。</li> </ul>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・図形の性質について、関連する領域や授業において、必ず既習事項の確認をして定着を図る。作図は、ノートやプリントで、繰り返し練習し、分度器やコンパスの使い方の方の習熟を図る。</li><li>・比例と反比例の学習など数と計算の領域では、倍数や約数などの数の構成についても扱うようにすることで、意味の理解を図るようにする。</li><li>・個別またはクラスごとの習熟度や課題に応じて、復習する内容を明確にし、プリントやタブレットドリルを活用して基礎基本の定着を図る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・小数や分数でも成り立つ計算のきまりについて、整数で成り立つことを必ず確認し、学習内容の定着を図る。</li><li>・比や割合、単位量当たりの大きさの学習では、毎時間数直線や線分図を用いて計算の意味や仕方を考え、立式できるようにする。</li><li>・立式の根拠や、誤答がなぜ誤答なのかの説明、図や式、データなどから読み取った内容を自分の言葉で説明するなど、児童同士で意見を聞く活動や、活動から意味や意図を読み取る活動を行い、学習内容の理解や学び方の変容を図る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・児童個々の理解度や学習状況、単元の特徴を考慮して習熟度別学習のクラス編成を行い、課題意識をもって意欲的に学習に取り組めるようにする。</li><li>・デジタル教科書や具体物、ワークシート等を習熟度別クラスの実態に合わせて活用する。問題把握や多様な表現ができるようにする。</li><li>・学習内容の定着と、より深い学びにつなげるために、振り返りは、学習のまとまりごとに書かせるように評価計画を立てる。児童の学習活動を明確化し、学習意欲を向上させるために、評価の視点を具体的に明示し、評価する。</li></ul>